

8 河川部

多々良川、那珂川、室見川などの大きな河川から中小の河川を含めた、生物の生息・生育環境、人の生活空間に潤いと安らぎを与える資源として期待される地域です。二級河川、準用河川、普通河川及び農業用水路を対象とします。

生物の生息・生育環境、人の生活空間に潤いと安らぎを与える資源として期待される地域です。

貴重・希少生物の生息・成育には多様な環境や河川の連続性の確保が必要です。河川改修などで河川の形状を変更する際は環境の均質化を避け、環境の復元を速やかに誘導する必要があります。

また、親水整備が行われている区間では、利用の妨げにならない配慮が必要です。

《求められる環境の例》

- ・多自然川づくりなどの取り組みにより、陸域から水域に緩やかに移行するエコトーンが再生され、汽水域や湿地などの多様な環境に多様な生物が生息している
- ・水路・池沼・農地と河川の連続性、上流から河口の連続性が改善され、生物の移動経路が確保されている
- ・かつて、人も近寄らない排水路と化していた小河川や水路は、河川環境整備が進み、潤いや親水性を回復し、多様な生物の生息環境を提供している
- ・多様な主体の協力により、外来種のモニタリングや駆除が継続的に行われ、ニッポンバラタナゴやメダカなどの在来種の確認種も回復してきている
- ・汚濁負荷の削減が一層進み、源流部から河口部まで生態系が確保され、博多湾の水質改善にも寄与している
- ・合流する大小さまざまな河川、湖沼や池といった水系全体の健全な水循環によって良好な水環境が形成され、シロウオなどの在来種の生息数が回復し、本市の食文化の継承を支えている
- ・良好な河川景観が街並みに潤いを与え、世代を超えたレクリエーションに活用されている

※「生物多様性ふくおか戦略」より抜粋



写真 河川部

河川部の環境配慮の要点

環境配慮の対象とする 環境要素	環境配慮の要点
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持	河川延長が短く勾配が急なため、濁りが発生しやすく、河川に流入した水質汚濁物質は自浄作用を受ける前に海域に到達しやすい状況にあります。濁りの発生が少ない工法を採用するなど、水質の保全に努めてください。
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全	多様な水生生物が生息するためには、多様な環境が必要です。河床浚渫の際には、河川断面に変化をつけるよう工夫してください。また海域と河川域を行き来する種の保全のため、水域の連続性に配慮してください。
人と自然との豊かな触れ合いの確保	潤いのある生活空間の形成のため、親水性の高い河川整備を行っている区間もあります。これらの施設の利用やアクセスを妨げないよう配慮してください。
環境への負荷の低減	工事用資材・浚渫残土等の再利用、適正処理に努めてください。

地域特性	
●自然的条件	
地形等	<p>河川延長は短く勾配が急なため、降雨が短時間で海へ流出する。</p> <p>河川は概ね博多湾に流れ込む。感潮域に近い低平地に形成された市街地を經由するため、集中豪雨があった場合に氾濫しやすい。</p> <p>中、下流域では土砂が堆積しやすく、多々良川河口には約 32ha の砂泥質の河口干潟、室見川河口には約 26ha の砂質の河口干潟、瑞梅寺川河口には約 80ha の砂泥質の河口干潟が発達している。</p>
植生	<p>河川の植生は土砂の堆積状況など植生の成立基盤となる河床構造によって変化する。上流から中流域では不安定な砂礫上に成立するツルヨシ群落、中流から下流感潮域にはマコモ、ヨシなどを中心とする植生、感潮域、干潟域には塩沼地植物群落などが見られる。</p> <p>重要な植物群落として、瑞梅寺川河口の塩沼地植物群落がある。</p>
生物多様性	<p>河川部の貴重・希少生物は、河川の連続性や環境の多様性に依るところが大きい。河川間には横のつながりが少ないため、水系特有の種も存在する。</p> <p>＜河川部を特徴づける貴重・希少生物＞</p> <p>魚類：シロウオ [多々良川、室見川]、カジカ (陸封型)、スナヤツメ [室見川]、アカザ、アリアケギバチ [那珂川]、オヤニラミ、カネヒラ、ドジョウ [那珂川、室見川]</p> <p>河川環境の多様さは、流速、底質、瀬・淵などの河床構造、植生の有無などにより決定する。短期スパンでの変化を特性とする環境であるが、環境の均質化を避け、環境復元を速やかに誘導することが望まれる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>シロウオ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>アリアケギバチ</p> </div> </div>

●社会的条件	
生活環境	公共下水道などの整備により、公共用水域への生活系、産業系の汚濁負荷の流入が抑制され、類型指定されたすべての河川で環境基準を達成している一方、基底流量は減少している。 水道水源として室見川、那珂川、瑞梅寺川、多々良川の水が使われているほか、工業用水として御笠川の水が使われている。
景観・歴史	那珂川の百年橋から番托堰までの区間、那珂川合流点から水車橋までの区間で河川景観に配慮した親水性の高い環境整備が行われているほか、金屑川では水辺の楽校プロジェクトとして親水護岸の整備が行われている。
その他	特定外来生物の中には、オオフサモ、ボタンウキクサ、ブラジルチドメグサのように河川環境に侵入し、急激に分布を拡げる可能性のある水生植物が含まれている。これらは取り扱いの方法によっては、種の拡散に寄与することになるため、注意が必要である。
環境配慮事項	
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持	
水質汚濁などの公害発生の防止	<input type="checkbox"/> 作業に伴う、騒音・振動、排気ガス、粉じんなどの発生・拡散を極力抑える工法を採用する。 <input type="checkbox"/> 資材等運搬車両、作業機械は、騒音・振動、排気ガス、粉じんの発生を極力抑えた運転を行う。 <input type="checkbox"/> 工事は休日を避けるほか、工事車両の走行は一般車両の多い時間帯を避ける。 <input type="checkbox"/> 路面の改良・補修を適宜実施する。 <input type="checkbox"/> コンクリート打設時のアルカリ性排水を中和処理する。
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全	
生態系への影響の軽減対策	<input type="checkbox"/> 法面や仮施設跡地、裸地は、表土の吹き付けなどにより在来植生の復元を図る。 <input type="checkbox"/> 濁りの発生が少ない工法を採用するなど、水質を保全する。 <input type="checkbox"/> 河床浚渫の際には、全面を一様に行うのではなく、河川断面に変化を付けるように工夫する。
貴重・希少生物等の生息・生育環境の保全	<input type="checkbox"/> 動物の繁殖期及び冬眠時期や渡り鳥の渡来時期、植物開花時期など、配慮対象とする貴重・希少生物の生息・生育条件に影響を与える時期の施工を控える。 <input type="checkbox"/> 作業機械による周辺緑地等への立入や踏みつけに注意する。 <input type="checkbox"/> 工事区間内での捕獲個体をできるだけ上下流側の工事区間外に放流するほか、代替地の創造や移植を行う。 <input type="checkbox"/> 人工光による影響を軽減するために、灯具の種類、設置数、位置、光色について検討する。 <input type="checkbox"/> 生物の生息・生育状況について、供用後のモニタリング調査を実施する。
外来生物対策	<input type="checkbox"/> 緑化植物は、用途にあった在来植物種を選定し、外来種を避ける。 <input type="checkbox"/> 特定外来生物の成育が確認された場合には、下流側への拡散防止のためのネットを設置するほか、浚渫土砂を系外に持ち出さないようにする。
人と自然との豊かな触れ合いの確保	
人と自然との触れ合いを考慮した施設構造の検討	<input type="checkbox"/> 木杭・石組など、自然素材を活用した施設を設置する。 <input type="checkbox"/> 橋脚や護岸、コンクリート施設などの配置やデザインや形状、色彩を工夫する。
環境への負荷の低減	
環境負荷の低減を考慮した計画	<input type="checkbox"/> 不法投棄を防止し、適正処分を徹底する。 <input type="checkbox"/> 解体作業が発生する場合は分別解体に努め、再資源化率の向上を図る。 <input type="checkbox"/> 熱帯木材型枠の使用を削減する。